

# 資源循環型施設の整備に向けて ごみの減量を考える

## 資源循環型施設の整備に向けて

市政の優先課題である資源循環型施設の整備については、令和2年11月から長野県環境影響評価条例に基づいた環境影響評価を実施しており、4段階の手続きのうち、2段階目(方法書)の手続きまで終了し、現在は現地調査を行っています。

また、施設整備に向け、現在も建設候補地周辺地域の皆さまと話し合いを続けており、上田地域広域連合および上田市としては、施設の早期建設に向け取り組んでいます。

今回は、資源循環型施設がどのような施設でどのような取り組みを進めているのか、また、施設建設に向けた家庭や地域でできるごみ減量について紹介します。

## 環境影響評価とは

大規模開発事業などを実施する事業者が、住民や関係自治体などの意見を聴きながら、事業が環境に及ぼす影響を調査・予測・評価し、より環境に配慮した事業とするための制度です。

## 現地調査とは

約1年かけて実施する現地調査により、建設候補地や周辺地域の環境の現状を明らかにし、建設工事や施設稼働による周辺環境への影響を予測・評価するために必要な情報を把握します。



**臭気の調査状況**  
調査地点の空気を採取し、人の嗅覚により測定



**土壌汚染の調査状況**  
調査地点の土壌を採取し、ダイオキシン類などを調査



※公告とは、公共団体が掲示などの方法で住民に知らせること。  
※縦覧とは、書類などを誰でも閲覧できるようにすること。

## 現在の3施設

上田市、東御市、長和町、青木村の可燃ごみは、3つのクリーンセンター(上田地域広域連合所管)で共同処理しています。  
3施設とも老朽化が進み、安全な運転管理を行うための維持管理費が年々増加しています。



**上田クリーンセンター**

築**36**年(昭和61年4月稼働)  
焼却処理能力200トン/日



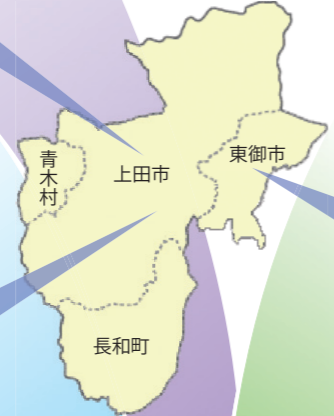
**丸子クリーンセンター**

築**30**年(平成4年4月稼働)  
焼却処理能力40トン/日



**東部クリーンセンター**

築**29**年(平成5年9月稼働)  
焼却処理能力30トン/日



## これからの可燃ごみ処理施設

### 資源循環型施設 (統合クリーンセンター)

環境にやさしいコンパクトな施設に!

資源循環型施設(統合クリーンセンター)の計画

◆**焼却処理能力** 144トン/日  
(現在3施設で270トン/日)

◆**維持管理費** 約4.5億円/年  
(現在3施設で約11億円/年)

※ 焼却で生じる熱エネルギーを回収し、熱利用や発電などに有効活用します。

## 建設候補地

清浄園用地(上田市常磐城および秋和地籍)

- 清浄園用地を候補地とした主な理由
- 施設建設に適した広さの公共用地であること
- 周辺に幹線道路が整備されていること
- 地下水の確保が容易であることなど



## 資源循環型施設整備に関する疑問にお答えします



**Q** 建設候補地は千曲川に近いけれど、施設の水害対策はどう考えているの?

**A** 100年に1度の確率の大雨に対しては「被災することなく、継続してごみ処理が可能な状態」として、1000年に1度の確率の大雨に対しては「被災したとしても、速やかに復旧し、ごみ処理ができない期間を最小限とすることを基本として対策を講じます。」

具体的には、ごみを運び込むプラットホームを高くする、防水扉の設置などを検討しており、詳細は現在策定中の施設基本計画で改めてお示しします。

(補足)  
100年に1度の確率の大雨・1000年に1度の確率の大雨とは、国や県がハザードマップを作成する際に基準としているもので、次のとおりです。  
千曲川流域全体の降雨量が  
・100年確率：48時間186mm  
・1000年確率：48時間396mm

**Q** 排ガスの影響が心配です。

**A** 廃棄物処理施設は、人の健康の保護および生活環境の保全を維持するため「法規制値」が定められています。資源循環型施設においては、法規制値よりさらに厳しい「自主基準値」を設け、より安全な施設を目指します。

**Q** プラスチックなどをまとめて焼却処理している自治体もあるけれど、上田市はできないの?

**A** 国内でも、脱炭素社会への取組やプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の施行など、循環型社会への移行が強化されており、資源循環型施設完成後も現在と同様にプラスチック類は燃やさない方針としています。

**Q** 新しい施設ができるごみの分別は変わるの?

**A** ごみの分別を変更する予定はありません。上田地域広域連合および上田市では、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を最優先と考えており、建設候補地周辺地域の環境への負荷を低減させるため、市民の皆さまには、ごみの分別に引き続きご協力をお願いします。

4ページで、上田市の可燃ごみの課題や皆さんが行ってほしい3Rについて紹介しています。

# 家庭でできる生ごみの減量 食品ロスを削減するための工夫



リデュース

## Reduce ごみを"つぐらない""出さない"を考えよう

食品の保存方法を工夫



キノコは冷凍保存で  
うまみもアップ!

無駄なものを買わない



買い物前には冷蔵庫の中身を  
チェック!

食材の皮などは捨てず、  
余すことなく調理



野菜の皮には栄養たっぷり!

リユース

## Reuse ごみにせず、"無駄にしない"方法を考えよう

フードドライブを活用し、家庭の食品ロスを減らそう!

家庭で消費されない食料品を集め、食べ物に困っている方や福祉施設などに届ける支援活動(フードドライブ)をしています。食料品の提供にご協力をお願いします。

- 日時 11月5日(土) 10:00~11:30
- 場所 ひとまちげんき・健康プラザうえだ
- 受付品

(次の条件を満たす缶詰、レトルト食品、乾麺、米、カップ麺などの保存できる食品)

- ①賞味期限が明記され、期間が1か月以上あるもの
- ②未開封で包装や外装が破れていないもの
- ③生鮮食品以外のもの(米は2021年産以降のもの)

毎月、広報うえだに  
開催日を掲載しています



☎ 上田市社会福祉協議会 ☎27・2025

リサイクル

## Recycle 生ごみの"再資源化"を考えよう

家庭での生ごみ減量をサポートします

ぜひご利用ください!

●段ボールコンポスト「ぱっくん」



段ボールを利用して生ごみを堆肥  
化できます。  
「ぱっくん」は次の配布場所で無  
料配布しています。

- 配布場所 エコ・ハウス  
(上田クリーンセンター内)  
丸子・真田・武石市民サービス課



- その他にも  
・生ごみリサイクル野菜循環ポイント事業「やさいまる」  
・「生ごみ出しません袋」などがあります。

●ごみ減量化機器購入費補助制度

家庭から出る「生ごみ」の減量化を目指し、生ごみの減量化機器を購入した方に購入費の補助を行っています。

- 補助率 購入費の5分の4 (100円未満の端数切捨)
- 限度額 コンポストなど 5千円/台  
電気式処理機など 5万円/台

- 申請先 廃棄物対策課 (上田クリーンセンター内)  
丸子・真田・武石市民サービス課  
生活環境課  
豊殿・塩田・川西地域自治センター



周辺環境への負荷が少ない資源循環型施設の整備を実現するためには、一人ひとりがごみの減量・再資源化に継続して取り組むことが重要になります。これまで以上にごみ減量・再資源化にご協力をよろしくお願いいたします。

☎ 資源循環型施設建設関連事業課 ☎71・8082  
ごみ減量企画室・廃棄物対策課 ☎22・0666  
生活環境課 ☎71・6428



# 生活の中で考える ごみの減量

資源循環型施設(3ページ)の1日の焼却処理能力は現在と比べて半分程度になります。環境にやさしいコンパクトな施設とするため、ごみの減量にご協力ください。

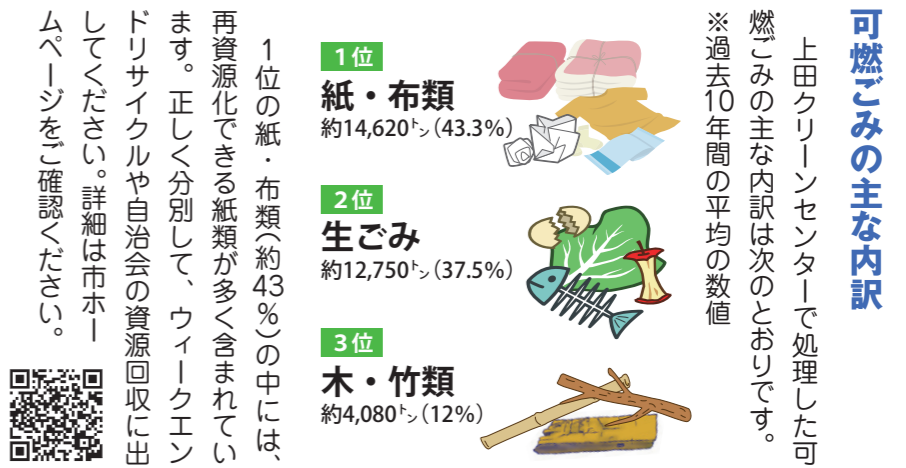


可燃ごみの減量にご協力ください

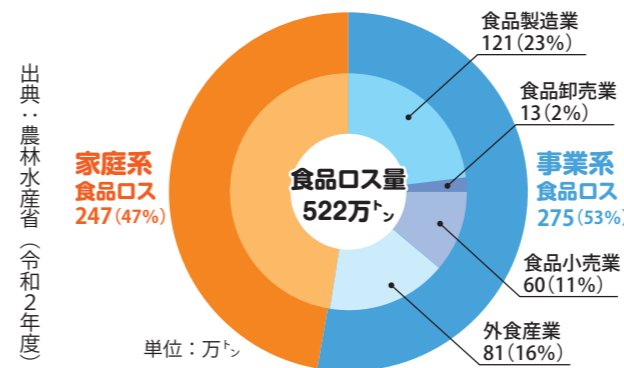
上田市の可燃ごみの量は年間約33,700ト。令和9年度の可燃ごみの量の目標値は28,700ト。約5,000トの減量を実現するためには、市民・事業者・行政が一丸となって取り組まなければなりません。

可燃ごみの約4割が生ごみ

2位の生ごみの特徴として、水分を多く含む非常に重いことが挙げられます。水分を切ることや乾燥させるなどの工夫が、可燃ごみ全体の量を減らすことにつながります。また、生ごみは、野菜の皮や卵の殻だけではありません。また食べられるのに捨てられてしまう食品も含まれています。



国民1人当たりの食品ロス量  
1日約113g 年間約41kg



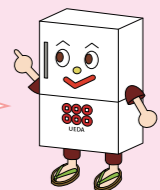
年間522万トが食品ロス!

食品ロスとは、「まだ食べられるのに捨てられている食品」のことです。農林水産省・環境省によると、令和2年度の日本の食品ロスの量は年間522万ト。そのうち約半分(247万ト)は家庭から出たものでした(左図)。食品ロスは、食べ物を生産・製造・輸送などに使った資源やエネルギーが無駄になります。また、食品を処分するためには新たな資源やエネルギーが必要となり、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出につながります。

## 10月は食品ロス削減月間です

家庭で発生する食品ロスの削減・生ごみの減量化・生ごみの再資源化をすることで、可燃ごみ量を大きく減らすことにつながります。家庭でできることから始めてみませんか(次のページで3Rを紹介します)。

まだ食べられるのに捨てるなんてもったいない!



れいぞうこくん  
(家庭における上田市食品ロス削減運動イメージキャラクター)